

<p>教育目標</p>	<p>「自ら学び、心豊かに、たくましく生きる生徒の育成」 基礎的、基本的な知識・技能・態度を修得させるとともに、自ら判断し、問題をよりよく解決していく「生きる力」を身につけさせる。</p>			<p>総合評価</p> <p style="font-size: 2em; text-align: center;">B</p>
<p>教育方針</p>	<p>「日本国憲法」・「教育基本法」の根本精神に基づき、奈良県教育委員会の指導方針を踏まえた本校の教育を推進する。 本校は、校区内に世界遺産の法隆寺、小倉百人一首にも詠まれている龍田川があり、平成29年度に創立70周年を迎えた歴史と伝統のある学校である。聖徳太子の教えの『「和」の心を大切にし、ともに学び、ともに築こう。』を教育理念に掲げ、『チーム斑鳩 心一つに 育み 支え つなぎ合う』のスローガンのもと、生徒も教職員も一つとなって、学習や行事、部活動などの学校生活のあらゆる場面において、いじめなどない調和のとれた学校となるように努めている。</p>			
<p>学校経営ビジョン</p>	<p style="text-align: center;">めざす学校像</p> <ul style="list-style-type: none"> ○誰もが行きたくなる学校 ○授業を大切にできる学校 ○笑顔と挨拶が溢れる学校 ○地域に信頼される学校 	<p style="text-align: center;">めざす教師像</p> <ul style="list-style-type: none"> ○わかる・楽しい授業を工夫する教師 ○生徒に寄り添い、真剣に向き合う教師 ○謙虚に学び、自己を磨く教師 	<p style="text-align: center;">めざす生徒像</p> <ul style="list-style-type: none"> ○自ら考え、意欲的に学ぶ生徒 ○互いに認め合い、支え合える生徒 ○自ら考え行動できる生徒 	
<p style="text-align: center;">前年度の評価と課題</p>		<p style="text-align: center;">今年度の重点目標</p>		
<p>学習面においては、全国学力・学習状況調査結果および授業アンケート結果により生徒の学力を分析的に把握し、授業改善に向けた指針を得ることができた。得られた改善点を修正し、学力の充実をより図っていく。また、ICT機器の活用や言語活動の充実など様々な角度から取り組んでいくことが課題である。生活面においては、基本的な生活習慣は概ね確立できているようであるが、通学マナーなどに課題が残り、継続的な指導が必要である。ルール・マナーを守ることの大切さを理解させ、規範意識向上に向け継続した指導を展開していく。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 学力の向上及び規律ある学習態度の充実を図る。 時間前行動を意識した学校生活を推進し、ICT機器を活用しながら生徒に学ぶことの楽しさを実感できる授業改善に取り組む。 2 規範意識を高め、挨拶の励行や適切な言葉遣い・行動ができる生徒を育てる。 挨拶の励行、正しい言葉遣いを推進し、ルールやマナーを守れる素地をつくる。 3 いじめを許さない学校づくりを推進する。 いじめ防止に努め生徒のSOS(変容)を見逃さず問題解決に向けて組織として取り組む。 		

評価項目	具体的目標 (評価小項目)	具体的方策・評価指標	評価		成果と課題 (評価の分析)	課題の改善策等	学校関係者評価
<p>学力の向上 基礎・基本 の定着</p>	<p>学習した知識を活用する学習方法を身につけさせる</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒に基礎的・基本的な知識・技能を身につけさせ、実生活の様々な場面において、活用・実践できるようにする。 ○生徒の学習習得状況に留意し、必要に応じて学習の補充を行っていく。 ●全国学力・学習状況調査で、平均正答率が県平均、全国平均を3%上回る。無回答を0に近づける。 	B	B	<p>基礎・基本の定着に向けてテスト前の質問会や学習会などで、学習を苦手とする生徒に学年でしっかり関わることができた。また、抽出問題で実施した全国学力学習状況調査の結果について、国語は無回答率0%で正答率は昨年度より12.8～29.7%上回っているが、「行書の特徴の理解」「伝えたいことや情景・心情の表現」等に課題ある。数学は無回答率0～1%で正答率は昨年度より12.1～45.2%上回っている領域もあるが、数学的な表現を用いて説明する領域は、15.7%下回っており、課題がある。</p>	<p>学習会については、抽出する生徒や取り組み内容を厳選していく。また、状況調査の結果を受けて、国語は語彙力向上のため、内容や伝え方について助言し合ったりする時間を設け、「話す力」の向上を図っている。また、行書の点画の省略・連続、筆順の変化などを捉えさせ、行書の特徴をさらに理解させて実践につなげていく。数学は数学的用語を用いた対話を充実させ、「振り返り」を数学的用語を用いて自分の言葉で表現・活用できるように習慣づけていく。</p>	<p>新学習指導要領の全面実施により、従来の知識詰め込み型の学習から、思考力、判断力、表現力を高める取り組みを今後も期待する。</p>
	<p>学習集団づくりについて規律ある学習態度を身につけさせる</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒が落ち着いた雰囲気、時間概念を意識した、けじめのある学習態度で取り組めるようにする。 ●授業アンケート結果において「私は落ち着いた雰囲気での学習に取り組んでいる。」の肯定的な回答を100%をめざす。 	A	A	<p>学習・生活の規律や環境、校内共通の統制構築が定着し、落ち着いた雰囲気の中で学校生活や学習活動に取り組むことができている。また、授業状況調査(授業アンケート)の「授業は、落ち着いた雰囲気、進められている」項目においては、各学級で100%近くの生徒から肯定的な回答を得ることができた。</p>	<p>落ち着いた雰囲気の中で、学校生活や学習活動への取り組みの習慣化を継続しつつ、今後は、授業状況調査結果の分析・考察を教職員と共有し、本校における課題を明確化させ、見通しを立てて授業改善に取り組み、学習成果の向上と質の向上に努めていく。</p>	<p>非常に落ち着いた雰囲気の中で学習活動が行われている。今後も継続して欲しい。</p>

評価項目	具体的目標 (評価小項目)	具体的方策・評価指標	評価		成果と課題 (評価の分析)	課題の改善策等	学校関係者評価	
学力の向上 基礎・基本 の定着	授業構成について授業者が学習の見通しを持って授業を受けさせている	○授業はシラバスに沿って進められ、授業のはじめに、提示された学習の「目標・めあて」を生徒は理解し、授業の終わりに、生徒が個々に学習の「振り返り」を行い、生徒が見通しを持って授業が受けられるようにする。	B	B	B	感染症の影響で、各教科とも授業の年間指導計画(シラバス)の進捗達成を重点に授業が進められ、目標進捗には達成できているが、授業における「めあて」提示の最大は100%、最小は28%、平均は70~80%、「振り返り」提示の最大は95%、最小は22%、平均50~60%であり、定着には至っていない状況である。「めあて」「振り返り」については、職員研修でその重要性を提示し、授業改善に向けて授業構成の中に取り入れるように促しているが、教科によってかなりのばらつきがみられた。	シラバスは、全教科統一形式でホームページに掲載と同時に冊子も引き続き配布をしていく。また、3学期に各教科の進捗状況を確認し、修得漏れがないように留意する。授業改善においては、「めあて」を提示するだけにとどまらず、生徒にしっかり伝わる方法をとっていく。また、「振り返り」を行う時間を授業の中に完全に組み込んで行えるようにしていく。	今後めあての提示と振り返りを確実に、1時間の授業に見通しと達成感を与えるような授業展開をして欲しい。
		●授業アンケート結果において「教科担当者が学習の目標・めあてを示しており、それを理解している」「教科担当者が学習の振り返りを示し個々が行っている」の回答を100%をめざす。						
心の教育の 充実	あいさつ運動を 推し進め規律と 活気のある生徒 の育成を図る。	○生徒会を中心に月に2回のあいさつ運動を行い、学校内だけでなく地域でも元気よくあいさつができる生徒を育成する。	B	B	B	生活委員を中心として、計画通りにあいさつ運動を行うことができた。生活委員のみならず、他の生徒も意欲的に参加してくれていた。また、生徒・教員による学校評価アンケートにおいても肯定的な回答が90%を超えることができた。しかし、保護者の回答においては90%には至らず83%という結果であった。	生徒や教師に対するあいさつはできていないが、来校者や地域の方へのあいさつがあまりできていない点、学校評価アンケートの保護者の回答や、普段の様子の様子から読み取ることができる。今年度の活動に加え、来校者や地域の方へのあいさつを呼び掛けていくようにしていく。	あいさつ運動にはPTAも参加し、より活発に行うことができていた。今後も継続して欲しい。
		○規範意識を高め、TP0を考えた言動をとれる生徒の育成を図る。日常から、各学級において規範意識を高める説諭を行い、集会時には生徒指導主事から規範意識を高める説諭を行う。						
	●学校評価アンケート(生徒・保護者・教員)結果において「社会規範(ルール)やマナーが身につけている」の回答を90%以上をめざす。							
心の教育の 充実	丁寧な言葉遣い ができる生徒を 育てる	○学校の教育活動全般を通じて、「場」に応じた言葉遣いについて考えると、正しい言葉遣いができるよう指導を行う。例えば、道徳の授業で礼儀の意義を考える。また、日常から、教師が距離感を意識して生徒と接する。	B	B	B	道徳の授業のほか、教育活動全般を通して言葉遣いについて考えさせることができた。肯定的な回答は保護者90%、生徒・教員は89%と概ね良好な状況である。しかし、生徒の回答を詳細に見てみると、「当てはまる」よりも「だいたい当てはまる」の方が数値としては高く、正しい言葉遣いできていないと感じる場面が生徒の中にあることがわかった。	概ね良好な状態であるので、本年度の取り組みを継続していく。特に道徳においては、単なる言葉の指導に留まらず、言葉を発する背景にある「心」に迫る授業内容を構築していく。また、生徒と教師の心理的距離が近づくと言葉遣いが砕ける傾向があるが、「場」にふさわしくない場合はその都度指摘することも重要である。尚、教師も生徒の見本としてどのような言葉遣いをするべきか考え、手本となるような発言を心がけていく必要がある。	教職員の言動が生徒にとって良い見本となるように、日頃から意識をして今後も職務にあたってもらいたい。
	自尊感情の高い 生徒を育てる	○互いの素晴らしいところ、見習いたいところ、頑張っているところ等を褒めあう活動を展開する。例えば、学活において、「いいところ探し」のような認め合いの活動を行う。						
●学校評価アンケート(生徒)結果において「自分のいいところを認めてくれる友達がいる」の回答90%以上をめざす。								

評価項目	具体的目標 (評価小項目)	具体的方策・評価指標	評価			成果と課題 (評価の分析)	課題の改善策等	学校関係者評価
心の教育の 充実	生徒理解を活かした教育の推進	○生徒が生き生きと学校生活を送れる学校をめざす。学校行事等を生徒主体として創り上げ、生徒に達成感を持たせる。 ●学校評価アンケート(生徒)結果において「楽しく学校に通っている」という回答を90%以上をめざす。	B	B	B	本年度は新型コロナウイルス感染症の影響で、学校行事を生徒主体で創り上げることが困難であった。感染拡大を防止するために、感染対策を生徒に協力してもらう形で文化祭と体育大会を行った。学校評価アンケートにおいて「楽しく学校に通っている」という回答は生徒、保護者ともに90%に近い回答があった。	来年度は、新型コロナウイルス感染症の状況をみながら、生徒主体で学校行事を創り上げることで、生徒に達成感を持たせる取り組みを推進していく。また、日々の生徒観察を徹底し、トラブルの早期発見、早期解決をすることで、楽しく学校に通えることを目指す。	アンケートにおいて肯定的な回答をしなかった1割の生徒にどうアプローチするかを課題として取り組んでいただきたい。
生徒会活動の 充実	生徒会活動のより一層の充実を図る。	○委員会活動を活性化し、4月に1年間の計画を立て、その年間計画に基づき、生徒が責任を持って活動できるようにする。 ●学校評価アンケート(生徒)結果において「係や委員などの生徒会活動に関心を持ち、積極的に参加している」という回答を90%以上をめざす。	B	B	B	コロナ禍の中、リモートによる取り組みを取り入れることにより、ある程度計画通りに実施することができた。しかし、例年と違う分準備に時間がかかり、生徒会活動以外との両立を上手くできなかった。 学校評価アンケートの結果は生徒と保護者が74%、教員が85%で90%には届かないという結果であった。	来年度も同じコロナ禍が想定されるので、今年度の経験をもとに準備をスムーズにできるようにしていく。各委員会との連携を図り、全ての委員会が活発に活動を行えるようにすることで、生徒会活動への関心・意欲を高める。	コロナ対策を講じての行事企画や校則改正等、生徒会活動が非常に活発に行われている。今後も継続して欲しい。
健康・体力・安全の 充実	体育指導の改善を図り、生徒の体力向上をめざす。	○体力テストの課題分析を行い、斑鳩中学校体力向上計画を立て、運動することの楽しさや生徒の体力向上をめざす。 ●持久走-15秒 長座体前屈+5cm 握力+0.3kgを目標に体育の授業を取り組む。	B	B		持久走において2年男子は-13秒、3年女子は-4秒の記録向上が見られたが、2年女子や3年男子では記録の低下も見られた。長座体前屈は全体で平均+3~4cmの記録向上が見られた。握力は男子で+5kg、女子で2.5kg程度の記録向上が見られた。	コロナ禍で前年度の冬場に持久走を十分に実施できなかったことが影響していると思われるため、今年度は12月~2月にかけて重点的に持久力を高めるトレーニングを行った。また、運動部活動にも体力テストの結果をフィードバックし、部活動での体力向上を目指している。	様々な制約が今後も予想されるが、最大限の体力向上が行えるよう工夫していただきたい。
	食育のより一層の充実を図る。	○年に2回の栄養調査を実施し、残食率を分析する。その結果を各学級に報告し、各担任から指導を行うことで更なる食育指導の充実をはかり、生活の中で食事が果たす役割や健康によい食習慣について考える。 ●給食の残食率を前年度より少なくする。とくに牛乳の残食率を前年度の15%から10%未満を目指す。	A	A	A	今年度はコロナの影響により、栄養調査を1回しか実施できなかった。残食率の分析からも牛乳の残が多い状況ではある。しかし、学年によってばらつきがあるが、全体的に見ると牛乳残食率15%前後から、10%未満へと目標を達成することができた。要因としては、今年度から紙パックへ変更となり飲みやすくなったことが挙げられる。また、栄養面を考慮して考えたリクエスト給食を実施するとどのメニューもほとんど残食なしであった。	牛乳を残してしまうと、もう一度冷やして翌日に提供するわけではなく、開封していなくても廃棄している。このことをしっかり生徒たちに伝えて、少しでも飲むように、担任の先生方とも協力して促していく。	残食率を少しでも減らすように、家庭科(栄養バランスの重要性)や、道徳(命の連鎖)等、様々な授業においてアプローチを試みて欲しい。
	安全教育を推進し、『安心・安全な学校』をめざす。	○安全教育を推進し、年間2回の防災訓練を行う。自然災害から身を守る知識や災害に適切に対応する能力を培う。また、事後学習として直前に発生した震災について学習する。 ○震災の日に合わせて、朝の学活を使い注意喚起を行い、震災に関する知識を深める。 ●避難訓練における避難行動開始から全員避難するまでの時間を3分以内にする。	B	B		年間2回の避難訓練を行うことができた。2回とも違う形式で生徒達が考えながら、避難できるように工夫した。事後の学習では、教科授業の中で生徒達に考えさせる場面をつくることはできたが、全体での学習はできなかった。 2回実施した避難訓練では、避難行動開始から完了までいずれも3分を超えた。	避難訓練において、全員避難するまでは迅速にできていたが、人数呼に時間がかかった。今後点呼方法の改善を要する。年間2回の訓練を行うためには、計画的に考える必要がある。防災の意識を高めるために、人権担当とも協力しながら、学習できるようにワークシートなどを作成していく。避難した後の人数点呼のマニュアルを全員に共通理解する場を職員会議等を通して、つくっていく。	状況設定を変えながら訓練が実施されることで、防災意識をより高めることにつながっている。今後とも継続して欲しい。

評価項目	具体的目標 (評価小項目)	具体的方策・評価指標	評価			成果と課題 (評価の分析)	課題の改善策等	学校関係者評価
健康・体力・安全の充実	いじめの早期発見・早期対応に努め、生徒が安心して登校し、充実した学校生活を送れるようにする。	○いじめに関するアンケートや教育相談、日々の生徒観察を通じて、いじめの早期発見、早期対応に努める。 ●いじめの重大事象「0」をめざす。 ●いじめの解消率「100%」をめざす。	A	A	A	6月と11月に教育相談週間を設け、担任との二者懇談を行った。また、8月と11月にいじめアンケートを実施し、合計22件のいじめ事象があったが、重大事象は0であり、その後の取り組みにより、すべて解消された。しかし、いじめアンケートで発覚した事象も多数あったため、日々の生徒観察を通して、早期発見、早期対応に努めていく。	来年度も6月と11月の2回、教育相談週間を設け、二者面談を行う中で、いじめ事象や人間関係トラブルの早期発見、早期対応を心がけていく。また、いじめアンケートも2回実施、早期発見と3ヶ月後の追跡調査も行っていく。	昨今のコロナ感染者や濃厚接触者への偏見にも留意しながら、今後もきめ細かい生徒観察に努めて欲しい。
特別支援教育の充実	特別支援教育に対する理解を深める	○特別支援教育コーディネーターを中心に、支援委員会(ケース会議)を定期的に開催し、個々の生徒の情報を共有し、実態に応じた支援を全職員に周知する。 ●特別支援アンケート結果において、4段階評価平均数値3以上をめざす。	B	B	B	特別支援コーディネーターと担任で、情報交換の場を持ち、個々への支援内容や方法の確認を密に行い、すすめることができた。担当の先生方にも情報共有することができた。また、特別支援教育に対する理解を深めるためのアンケートを予定していたが、新型コロナウイルス感染拡大予防のため特別支援の取り組みに変更が生じ、行うことが出来なかった。	特別支援教育の理解、生徒の状況、支援方法など担当だけでなく、全職員に情報共有ができるように、発信の機会を増やしたり、ケース会議を定期的に行う必要があると考える。	全ての生徒が安心して伸び伸びと活動できるように、全ての職員で情報共有しながら取り組みを進めて欲しい。
家庭・地域との連携	学校と家庭・地域との連携する体制の構築をめざす	○学校通信「斑鳩の道」や学年通信、HP等をICTサポーターを活用して、学校の様子について伝える。 ●学校評価アンケート(保護者)「各種たよりや電子メール、ホームページ等で、情報を積極的に発信している」の項目において90%以上の肯定的な回答をめざす。	B	B	B	月に一度のペースで「斑鳩の道」を発行し、折々の行事や調査結果等を発信した。また、適宜HPを更新し情報発信に努めた。必要に応じて連絡事項や不審者情報をメール配信した。学校評価アンケートでは、80%以上の保護者が情報発信について肯定的な回答をした。	学校評価アンケート(保護者)「各種たよりや電子メール、ホームページ等で、情報を積極的に発信している」の項目において、肯定的な回答が80%にとどまった。情報発信ツールとしてのHPについて、利便性や魅力をさらに高めることで、頻繁に見てもらえるような工夫が今後必要である。	ICTの発達により、情報発信ツールの選択肢も増えた。様々な機会を捉えて情報発信に努めて欲しい。
	生徒が地域に貢献できる活動を行う。	○生徒が地域に貢献できる活動を行う。 藤ノ木古墳周辺の清掃やクリーン活動への参加を充実させる。 ●学校評価アンケート(生徒)「地域の行事等に積極的に参加している」の項目において50%以上の肯定的な回答をめざす。	B	B		2年生において、これまでにはなかった地域清掃ボランティア団体の協力を得る形でクリーン活動を行った。職場体験がなくなった為に、地域社会の皆さんとの関わりを通して社会性を身につける事をねらいとしてこの形態を取った。学校評価アンケート(生徒)「地域の行事等に積極的に参加している」の項目においては、30%以上の肯定的な回答にとどまった。	コロナ禍にあり、様々な取り組みが中止または縮小して行われることになったが、左記のような工夫を凝らしたことで、協力いただいた各団体様からも高い評価をいただき、生徒達にとっても大きな励みと自信につながった。このような取り組みの工夫を行うことで、地域貢献の動機付けを図りつつ、家庭にも協力を仰ぐ。	様々な制約が継続するが、今年度のような工夫を凝らし、地域との交流を図ってもらいたい。
教員の育成	教員の指導力を向上させ、授業力の高い教員を育成する。	○授業研究を中心とした校内研修や教師による授業参観を行うことで、自らの授業改善を図り、授業力の向上を図る。 ●生徒授業アンケート結果において、各項目のレーダーチャート4段階評価平均数値3以上をめざす。	B	B	B	各教科とも進度達成に向けて7時限授業を進める中、空き時間に余裕がなく、授業研究や授業参観の実施はできなかった。授業状況調査(授業アンケート)により、各教科で授業改善の方向性は認識できたが、レーダーチャートの結果は、各教科でばらつきが見られ、4を最大したとき平均は2.4で、3以上の肯定的な回答を得られなかった。	次年度は、参観授業を実施し、他教科との交流を行い、さらに向上した授業づくりを目指していく。また、教科の研究授業も実施し、授業研究と研究協議を通じて研修を深める。そして、今年度の授業状況調査(授業アンケート)の分析結果を活かすことができる授業改善を行う。	分析結果を活かしていただけるように、PDCAサイクルの構築に努めて欲しい。
	ICTを活用した教育の推進をめざす	○ICT教育推進リーダーを中心に、スキル向上(情報モラルを含む)や利活用の工夫についての研修会を行う。 ●職員が電子黒板・プロジェクター等のICT機器の操作技術を身に付け、授業において利用一覧表の利活用率を60%以上にする。	B	B		今年度は今後導入されるchromebookの活用に向けて校内でのGoogleの研修に一度ではあるが取り組むことができた。今年度は多くの職員が電子黒板、プロジェクターを使用し、利用率はおおむね60%を超えるものにすることができた。	今年度の研修ではGoogleに触れるという程度になり、スキルの習得、向上とまではできなかった。今後の活用の必要性を考えて、数多くの研修を企画していく。電子黒板、プロジェクターの利用率が高まっているがまだまだ一部の職員に限られているところもある。どの職員にも使用可能な環境を整え、活用をサポートしていく。	chromebookを活用して、生徒の思考力、判断力、表現力を高めて欲しい。その指導力を高める研修を実施して欲しい。

評価項目	具体的目標 (評価小項目)	具体的方策・評価指標	評価		成果と課題 (評価の分析)	課題の改善策等	学校関係者評価
業務改善	不登校生徒が学校へ登校できる環境をつくる。	<p>○ 校内適応教室を継続的に運営し、不登校生徒が登校できることをめざす。</p> <p>● 不登校生徒が、1人でも多く登校できることをめざす。</p>	B	B	不登校対策委員会を立ち上げ、SSWやSCの専門的な見地からのアドバイスを得ながら個別の対応に努め、登校を再開できた生徒もいる。登校再開にまで至らないケースにおいても、SCを受けることで自身の心を整理し、再登校に向けた足がかりとなっている生徒もいる。	担任だけでなく、学年教員、養護、SC等、不登校傾向にある生徒に対応できるチャンネルを多く持つ。また、引き続き不登校対策委員会を持ち、不登校生徒に関わる内容を全体で共有し、専門家の見立てを得ながら、一人でも多くの不登校生とが登校できることを目指していく。	適応教室の設置、充実を図り、不登校生徒が登校を再開できる足がかりを一つでも多く持つるように引き続き取り組んで欲しい。
	教職員の働き方に対する意識改革を行う	<p>○ 出退勤記録システムを利用して、出退勤の時刻を管理し、職員の健康状況を把握する。</p> <p>○ 業務改善のために時間短縮の工夫をする。</p> <p>● 職員一人の時間外労働を月合計45時間以内かつ年間合計360時間以内を達成している職員が全体の70%以上をめざす。</p>	B	B	3月1日現在、時間外労働が月合計45時間以内かつ年間合計360時間以内を達成する見込みの職員は、全体の9%にとどまった。出退勤記録の入力が土日祝日も含めて職員間に定着し、より正確な状況把握につながった。また、毎週金曜日に19時には学校を閉める取り組みや、各校務分掌で業務の見直しを行うことで、職員の意識に変化が見られた。	働き方改革に関わる職員の意識は確実に変化しており、突発的な生徒指導事象対応時等を除けば、概ね限られた時間内で最大限の効果を上げる努力が成されている。数値目標の達成には至っていないが、各校務分掌を中心に学校行事や業務内容の見直しを今後も進めることで、目標数値の達成を目指す。	全職員が働き方改革の趣旨を理解し、教育活動において大切な部分(部活動での人間関係づくり等)は維持しながら改革を進めて欲しい。